

1 役割に応じた事業プログラム（想定）と要素の抽出

役割	委員会意見	事業プログラム（想定）	必要な要素		
			空間	仕組み	人材（スタッフ）
① 多様な経験の共有・蓄積・発信	居合わせた人同士が伝え合う／写真を前に語り合う／節目で語り合う／対話を通じて個々の体験を共通の経験に高める／物語を紡ぎ直す／語り部の話を聞く	【経験の共有】 意識的に経験を語る・聞く機会を創出する	人が集まれる空間		企画する人 多様な人・団体とつながる人
	語り部の育成	【経験の共有】 意識的に経験を聞き・学ぶ機会を創出する	人が集まれる空間		学びの場をコーディネートする人
	日常的に話題になる機会	【経験の共有】 （プログラムではなく）日常の中で無意識に経験を語る・聞く		日常空間に存在する想起のきっかけ	
	震災の記憶を記録し残していく／語り部を発掘する／参加者が自ら声を残し加工する／物語（オーラルヒストリー）を再構築する／個々の意見を集めながらハブとして発信する／震災関連の図書を人に応じてキュレーションする／災害の経験を整理し続ける／震災の経験を問い続ける	【経験の記録】 東日本大震災の無形の記憶（証言・風景等）を記録する	記録・編集する空間	記録を蓄積するもの	多様な人・団体とつながる人 記録・整理する人
			【経験の記録】 東日本大震災の有形の記憶（被災物・図書等）を収集する	有形物を収蔵する空間	
	修学旅行・研修等のニーズ／東日本大震災の全体像を伝える	【経験の発信】 東日本大震災の経験を俯瞰的な視点で展示する	展示空間		展示構成を編集する人 記録を開き、編集する人
	複雑さを複雑なままに伝える／様々な個人・団体の記録が見られる	【経験の発信】 東日本大震災の経験を個別の視点で展示・発信する	展示空間 記録を閲覧する空間		展示構成を編集する人 記録を開き、編集する人
	新たな災害が起きた際に情報を発する／現在進行形の災害について過去から現在までの経過がみられる	【経験の記録】 新たな災害を記録する	記録・編集する空間	記録を蓄積するもの	調査し情報を収集する人
【経験の発信】 新たな災害の情報を展示・発信する			展示空間	情報を編集し発信する人	
② 新たな知恵の創造と社会への実装	災害文化のありもの探し	【知恵の発掘】 身近にある知恵・失われた知恵を掘り起こす		知恵を記録・蓄積するもの	調査し情報を収集する人
	多様な人が議論し続ける／立場を超えて意見を出し合い提言をまとめる／持続的に活動する／今後の対策を考える／新たな災害への想像力を育む／時代の移り変わりに応じて災害を乗り越える準備を更新し続ける／市民のアクションにつながる仕組みを考える／人間社会のあり方を考える	【知恵の創造】 多様な人が議論し時代に即した新たな知恵を創造する	議論する空間	知恵を記録・蓄積するもの	多様な人・団体とつながる人 人と人を有機的につなぐ人 創造の過程や知恵を記録する人 災害文化の創造につながる社会課題を掘り起こす人
			創作空間（アトリエ）		
	独自の災害文化を目に見える形にする／災害とともに生きるために何が必要か発信する／これからのアクションにつながることを学ぶ／人間としての生きる力を高める／災害の経験を世界に共有していく／実践者と専門家の研究成果を定期的に発表する	【知恵の実装】 新たな知恵を展示・発信する	展示空間		展示構成を編集する人 企画する人
			人が集まれる空間		企画する人 多様な人・団体とつながる人
	防災を学ぶ／防災だけではなく「日常生活」や「歴史・文化」との重なりで伝える／同じことを繰り返さないために災害の記憶を日常の中に引き継ぐ文化をつくる／リスク教育	【知恵の実装】 地域における災害の歴史・リスクの探し方等を学ぶ機会を創出する	人が集まれる空間		学びの場をコーディネートする人
③ 超長期の記憶の継承	有形物を通して伝える思いをつなぐ／東日本大震災が起きたことを忘れない／日常の中に災害の記憶が引き出される環境をつくる／日常を邪魔しない広場とモニュメントで記憶を想起させる／遊びの場とモニュメントを通じて親から子に継承する／反復的な音による記憶の身体化する／出来事の大きさ・あり得ない経験を可視化するモニュメント	【日常的な記憶の想起】 （プログラムではなく）日常の中で反復的に五感を機能させることで東日本大震災の記憶を体の中に残していく	日常に生きる開かれた空間とそこに存在するモニュメント・音		
			【定期的な記憶の想起】 追悼や祭り等の定期的な行事を通じて東日本大震災の記憶を体の中に残していく	開かれた空間	
④ 広域的な連携	ゲートウェイとしていろいろなおとところにつなぐ／訪れた人が目的や時間に応じて周る／ステーションのように訪れる人がどこに行くか考える／フロー（人の動き）をつくり出す	【来訪者をつなぐ】 来訪者を被災各地につなぐきっかけや情報を提供する	展示空間		展示構成を編集する人 被災各地とつながる人
	語り継ぐ術を学ぶ／各地域の取組みを支える／アーカイブを通じた被災地の連携／様々な活動や団体の協調／既にある団体・個人との連携／沿岸部の人たちとの協働／地域毎の取組みの構想や情報共有を図る／共助の先進例を学ぶ	【情報や知恵を共有する】 事業の連携等により被災各地と情報や知恵を共有する			被災各地とつながる人

## 2 要素の整理

### 2-1 「空間」の整理

空間	事業プログラム（想定）	用途	利用者の想定
人が集まれる空間	【経験の共有】 意識的に経験を語る・聞く機会を創出する	<b>[集会]</b> 経験や知恵を、人が集まり語る・聞く・学ぶ・考える空間	・災害の経験や知恵に触れる意思を持ち、拠点を訪れる人 例) 災害を伝えたい人・知りたい人 防災を学びたい人 災害を乗り越える知恵を議論したい人
	【経験の共有】 意識的に経験を聞き・学ぶ機会を創出する		
	【知恵の実装】 新たな知恵を展示・発信する		
	【知恵の実装】 地域における災害の歴史・リスクの探し方等を学ぶ機会を創出する		
議論する空間	【知恵の創造】 多様な人が議論し時代に即した新たな知恵を創造する		
展示空間	【経験の発信】 東日本大震災の経験を俯瞰的な視点で展示する	<b>[展示・閲覧]</b> 経験や知恵、情報を、見る空間	・災害の経験や知恵に触れる意思を持ち、拠点を訪れる人 例) 災害を知りたい人 防災を学びたい人 被災各地に行きたい人
	【経験の発信】 東日本大震災の経験を個別の視点で展示・発信する		
	【経験の発信】 新たな災害の情報を展示・発信する		
	【知恵の実装】 新たな知恵を展示・発信する		
	【来訪者をつなぐ】 来訪者を被災各地につなぐきっかけや情報を提供する		
記録を閲覧する空間	【経験の発信】 東日本大震災の経験を個別の視点で展示・発信する		
記録・編集する空間	【経験の記録】 東日本大震災の無形の記憶（証言・風景等）を記録する	<b>[記録・創作]</b> 経験や知恵を、記録・整理・編集する空間	・災害の経験や知恵に触れる意思を持ち、拠点を訪れる人 例) 災害を記録したい人 伝える活動に必要なものを作りたい人
創作空間（アトリエ）	【経験の記録】 新たな災害を記録する		
創作空間（アトリエ）	【知恵の創造】 多様な人が議論し時代に即した新たな知恵を創造する		
有形の記憶を収蔵する空間	【経験の記録】 東日本大震災の有形の記憶（被災物・図書等）を収集する	<b>[アーカイブ（収蔵）]</b> 有形の記憶を、収蔵する空間	（バックヤード）

### 2-2 「仕組み」の整理

仕組み	事業プログラム（想定）	用途	利用者の想定
記録を蓄積するもの	【経験の記録】 東日本大震災の無形の記憶（証言・風景等）を記録する	<b>[アーカイブ]</b> 経験や知恵の記録を、蓄積するもの	・災害の経験や知恵に触れる意思を持ち、拠点を訪れる人 例) 災害を記録したい人 災害を乗り越える知恵を記録したい人
知恵を記録・蓄積するもの	【経験の記録】 新たな災害を記録する		
知恵を記録・蓄積するもの	【知恵の発掘】 身近にある知恵・失われた知恵を掘り起こす		
知恵を記録・蓄積するもの	【知恵の創造】 多様な人が議論し時代に即した新たな知恵を創造する		

### 2-3 「空間と仕組みの掛け合わせ」の整理

空間	仕組み	事業プログラム（想定）	用途	利用者の想定
日常に生きる開かれた空間とそこに存在するモニュメント・音		【日常的な記憶の想起】（プログラムではなく）日常の中で反復的に五感を機能させることで東日本大震災の記憶を体の中に残していく	<b>[広場機能とシンボル]</b> 震災の記憶を、想起する開かれた空間とモニュメント・音	・災害の経験や知恵に触れる意思を持ち、拠点を訪れる人 例) 災害を知りたい人 追悼の意を示したい人 ・日常使いや観光目的で訪れる人が二次的に訪れる
開かれた空間	—	【定期的な記憶の想起】 追悼や祭り等の定期的な行事を通じて東日本大震災の記憶を体の中に残していく		
—	日常空間に存在する想起のきっかけ	【経験の共有】（プログラムではなく）日常の中で無意識に経験を語る・聞く		

2-4 「人材（スタッフ）」の整理

人材（スタッフ）	事業プログラム（想定）	職種	職種の解説
企画する人	【経験の共有】 意識的に経験を語る・聞く機会を創出する 【知恵の実装】 新たな知恵を展示・発信する	ディレクター	・事業プログラムを運営する人
学びの場をコーディネートする人	【知恵の実装】 多様な人・団体との連携により新たな知恵を社会で展開する（フィールドワーク） 【経験の共有】 意識的に経験を聞き・学ぶ機会を創出する 【知恵の実装】 地域における災害の歴史・リスクの探し方等を学ぶ機会を創出する		
多様な人・団体とつながる人	【経験の共有】 意識的に経験を語る・聞く機会を創出する 【経験の記録】 東日本大震災の無形の記憶（証言・風景等）を記録する 【経験の記録】 東日本大震災の有形の記憶（被災物・図書等）を収集する 【知恵の創造】 多様な人が議論し時代に即した新たな知恵を創造する 【知恵の実装】 多様な人・団体との連携により新たな知恵を社会で展開する（フィールドワーク）	コーディネーター	・人や団体をつなぐ人
人と人を有機的につなぐ人	【知恵の創造】 多様な人が議論し時代に即した新たな知恵を創造する		
被災各地とつながる人	【来訪者をつなぐ】 来訪者を被災各地につなぐきっかけや情報を提供する 【情報や知恵を共有する】 事業の連携等により被災各地と情報や知恵を共有する	リサーチャー	・調査し、記録する人
調査し情報を収集する人	【経験の記録】 新たな災害を記録する 【知恵の発掘】 身近にある知恵・失われた知恵を掘り起こす		
価値を見極め収集する人	【経験の記録】 東日本大震災の有形の記憶（被災物・図書等）を収集する		
創造の過程や知恵を記録する人	【知恵の創造】 多様な人が議論し時代に即した新たな知恵を創造する		
災害文化の創造につながる社会課題を掘り起こす人	【知恵の創造】 多様な人が議論し時代に即した新たな知恵を創造する	キュレーター	・必要な情報を選択し、編集・発信する人
展示構成を編集する人	【経験の発信】 東日本大震災の経験を俯瞰的な視点で展示する 【経験の発信】 東日本大震災の経験を個別の視点で展示・発信する 【知恵の実装】 新たな知恵を展示・発信する 【来訪者をつなぐ】 来訪者を被災各地につなぐきっかけや情報を提供する		
記録を開き、編集する人	【経験の発信】 東日本大震災の経験を俯瞰的な視点で展示する 【経験の発信】 東日本大震災の経験を個別の視点で展示・発信する		
情報を編集し発信する人	【経験の発信】 新たな災害の情報を展示・発信する		
記録・整理する人	【経験の記録】 東日本大震災の無形の記憶（証言・風景等）を記録する	アーキビスト	・アーカイブの専門的知識を有する人

3 要素の組合せ整理

パターン	(1) 博物館機能重視	(2) 広場機能重視	(3) ミニマム（ネットワーク機能重視）																											
基本的考え方	①展示や企画事業などのコンテンツを重視 ②広場とシンボルの機能は、コンテンツを展開する空間の付帯要素	①広場とシンボルの機能を重視 ②展示や企画事業などのコンテンツは小規模なものとして一角で展開	①固有の施設や資料は極力有さず、各団体・施設とのネットワーク機能で充足																											
各要素の相関	<table border="1"> <tr><td>集会</td><td rowspan="4">大</td></tr> <tr><td>展示・閲覧</td></tr> <tr><td>記録・創作</td></tr> <tr><td>アーカイブ</td></tr> <tr><td>広場機能とシンボル</td><td>小</td></tr> <tr><td>人材（スタッフ）</td><td>あり</td></tr> </table> <p>各種コンテンツをメインで展開</p>	集会	大	展示・閲覧	記録・創作	アーカイブ	広場機能とシンボル	小	人材（スタッフ）	あり	<table border="1"> <tr><td>集会</td><td rowspan="4">小</td></tr> <tr><td>展示・閲覧</td></tr> <tr><td>記録・創作</td></tr> <tr><td>アーカイブ</td></tr> <tr><td>広場機能とシンボル</td><td>大</td></tr> <tr><td>人材（スタッフ）</td><td>あり</td></tr> </table> <p>広場とシンボルの機能をメインで展開</p>	集会	小	展示・閲覧	記録・創作	アーカイブ	広場機能とシンボル	大	人材（スタッフ）	あり	<table border="1"> <tr><td>集会</td><td rowspan="4">既存活用</td></tr> <tr><td>展示・閲覧</td></tr> <tr><td>記録・創作</td></tr> <tr><td>アーカイブ</td></tr> <tr><td>広場機能とシンボル</td><td>既存空間に加える</td></tr> <tr><td>人材（スタッフ）</td><td>あり</td></tr> </table> <p>既存活動と協力しながら、既存空間を活用してコンテンツを展開</p>	集会	既存活用	展示・閲覧	記録・創作	アーカイブ	広場機能とシンボル	既存空間に加える	人材（スタッフ）	あり
集会	大																													
展示・閲覧																														
記録・創作																														
アーカイブ																														
広場機能とシンボル	小																													
人材（スタッフ）	あり																													
集会	小																													
展示・閲覧																														
記録・創作																														
アーカイブ																														
広場機能とシンボル	大																													
人材（スタッフ）	あり																													
集会	既存活用																													
展示・閲覧																														
記録・創作																														
アーカイブ																														
広場機能とシンボル	既存空間に加える																													
人材（スタッフ）	あり																													
期待される効果等	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワンストップで様々な学びを得られる</li> <li>空間の作り方によっては、誘客施設として機能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常の交流空間として機能することで、特定の目的を持たない人も含めて、あらゆる人に記憶を継承できる</li> <li>空間の作り方によっては、誘客場所として機能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3パターンの中では最も維持コストが低い</li> </ul>																											
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>特定の目的を持つ人だけが訪れ、多くの人にとって縁遠い場所となる可能性が高い</li> <li>展示などのコンテンツを絶えず更新し続けることが必要</li> <li>震災メモリアル以外との掛け合わせなど、必要に応じてコンテンツの充足を図ることも必要</li> <li>3パターンの中では最も維持コストが高い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>同時に多くのコンテンツを展開することが困難</li> <li>日常の中での反復的なアプローチが必要であり、拠点性の高い場所に整備することが求められる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>来訪者に対する常設の情報発信が困難で、かつ、情報の一覧性がない</li> <li>アーカイブの実施が困難</li> <li>コンテンツの展開にあたり、既存活動の個人・団体の理解と協力が必須</li> <li>コンテンツの展開が終了すると、シンボル以外に震災のことを伝えるものがない</li> </ul>																											

